

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和元年9月13日

【四半期会計期間】 第51期第2四半期(自平成30年11月1日至平成31年1月31日)

【会社名】 株式会社明豊エンタープライズ

【英訳名】 MEIHO ENTERPRISE Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 梅木 隆宏

【本店の所在の場所】 東京都目黒区目黒二丁目10番11号

【電話番号】 03(5434)7653

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 管理部長 安田 俊治

【最寄りの連絡場所】 東京都目黒区目黒二丁目10番11号

【電話番号】 03(5434)7653

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 管理部長 安田 俊治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、当社の中国プロジェクトに係る貸付金等債権に関する過年度の貸倒引当金の計上に疑義があるという外部からの指摘を受け、調査の必要性があると判断されたため、令和元年7月10日、当社と利害関係を有しない外部の専門家から構成される特別調査委員会を設置し、専門的かつ客観的な調査を進めて参りました。

令和元年9月6日に特別調査委員会から調査報告書を受領し、当該中国プロジェクトに係る貸付金債権については平成22年7月期の第2四半期に、出資持分の売買代金債権については平成22年7月期の第3四半期に、それぞれ債務者の支払い能力を踏まえた貸倒引当金の計上を行う必要があったとの報告を受けました。当社は、報告内容の検討の結果、当該債権に対する貸倒引当金の計上時期の見直しを行い、平成26年7月期から平成30年7月期の有価証券報告書、並びに平成26年7月期の第1四半期から令和元年7月期の第3半期までの四半期報告書についての決算訂正を行うことといたしました。

これらの決算訂正により、当社が平成31年3月15日に提出いたしました第51期第2四半期(自平成30年11月1日至平成31年1月31日)四半期報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、アーク有限責任監査法人より四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2 【訂正事項】

第一部企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

四半期レビュー報告書

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第2四半期 連結累計期間	第51期 第2四半期 連結累計期間	第50期
会計期間	自 平成29年8月1日 至 平成30年1月31日	自 平成30年8月1日 至 平成31年1月31日	自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日
売上高 (千円)	6,333,489	2,923,774	14,479,096
経常利益又は経常損失 () (千円)	1,255,593	78,541	2,624,654
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 () (千円)	1,118,395	90,693	2,256,323
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,122,207	100,962	2,260,054
純資産額 (千円)	3,119,444	3,965,418	4,257,291
総資産額 (千円)	9,253,271	11,931,766	10,310,356
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は1株当たり四半期純 損失 () (円)	45.80	3.84	93.93
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	33.6	33.1	41.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	648,808	3,027,659	2,296,216
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	474,374	370,639	1,953,835
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	102,658	2,132,370	294,511
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,599,875	1,051,321	1,575,969

回次	第50期 第2四半期 連結会計期間	第51期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年11月1日 至 平成30年1月31日	自 平成30年11月1日 至 平成31年1月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1 株当たり四半期純損失 () (円)	13.59	2.00

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、免税事業者に該当し税込方式を採用している連結子会社を除き、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が続く中で、個人消費の持ち直しや好調な企業収益を背景に景気の回復基調は継続しております。一方、海外経済においては経済・金融政策に関する不確実性による影響などに留意する必要があるとあり、引き続き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する不動産業界においては、地価の上昇基調が継続する中で、販売価格の高騰が懸念されたものの、日銀の金融緩和政策を背景に実需は底堅い動きを示しており、事業環境は概ね良好であります。

このような事業環境下、当社グループは、既存の保有資産について最善と思われる出口戦略・販売計画を実行し、収益性の維持と早期回収を睨みながら財務基盤の安定に努めるとともに、収益不動産及び新規事業等の用地仕入・開発・販売活動を積極的に進め、当第2四半期連結会計期間におきまして、「ミハス明大前」（東京都世田谷区）他1棟の引渡しを完了いたしております。また、中古物件リニューアル再販事業として、都心近郊におきまして2棟の引渡しをいたしております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は29億23百万円（前年同四半期比53.8%減）、営業損失3百万円（前年同四半期は営業利益13億25百万円）、経常損失78百万円（前年同四半期は経常利益12億55百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失90百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益11億18百万円）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

[不動産分譲事業]

不動産分譲事業においては、アパート開発事業である「MIJAS（ミハス）」シリーズを2棟売却、中古物件リニューアル再販事業において3件の引渡しを行いました。その結果、売上高は16億98百万円（前年同四半期比67.4%減）、セグメント損失は27百万円（前年同四半期はセグメント利益12億87百万円）となりました。

[不動産賃貸事業]

不動産賃貸事業においては、プロパティーマネージメント報酬等により、売上高は10億92百万円（前年同四半期比13.6%増）、セグメント利益は94百万円（前年同四半期比6.9%減）となりました。

[不動産仲介事業]

不動産仲介事業においては、東京都内所在物件の仲介報酬等により、売上高は3百万円、セグメント利益は3百万円となりました。前年同四半期において、不動産仲介事業における仲介報酬等の発生はありません。

[請負事業]

請負事業につきましては、工事請負の施工及びリフォーム工事等により、売上高は1億11百万円（前年同四半期比30.9%減）、セグメント利益は5百万円（前年同四半期比64.2%減）となりました。

[その他]

その他につきましては、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に保険代理業等により、売上高は26百万円（前年同四半期比59.8%増）、セグメント利益は21百万円（前年同四半期比35.5%増）となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、16億21百万円増加し、119億31百万円となりました。

また、負債においては、前連結会計年度末に比べ19億13百万円増加し、79億66百万円となりました。これは、新規開発事業用地等の取得資金として長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む。以下同様。）が5億20百万円及び短期借入金が18億12百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

純資産においては、前連結会計年度末に比べ2億91百万円減少し、39億65百万円となり、自己資本比率においては、前連結会計年度末より8.1ポイント減少し、33.1%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期連結会計期間末に比べ5億48百万円減少し、10億51百万円となりました。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加により24億93百万円減少、預り金の減少により1億27百万円減少したこと等により、30億27百万円の支出(前年同四半期連結累計期間は6億48百万円の収入)となりました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業用資金の貸付金の回収により3億75百万円増加したこと等により、3億70百万円の収入(前年同四半期連結累計期間は4億74百万円の支出)となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動によるキャッシュ・フローは、物件売却等に伴い長期借入金が9億91百万円返済によって減少、また、配当金の支払により1億88百万円減少したものの、開発事業用地等取得のための資金として、短期借入金が18億12百万円及び長期借入金が15億12百万円それぞれ増加し、21億32百万円の収入(前年同四半期連結累計期間は1億2百万円の支出)となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当グループの経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6)生産、受注及び販売の実績

当社グループの不動産分譲事業は、建物の竣工後、購入者へ引渡しが行われる際に売上高が計上されるため、開発時期や工期等により四半期ごとの売上実績に偏向が生じる傾向にあります。当第2四半期連結累計期間のセグメント別業績の前年同四半期比増減率は次のとおりであります。

[連結セグメント別業績]

セグメントの 名称	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年1月31日)		
	金額(千円)	前年同四半期比増減率(%)	
不動産分譲事業	共同事業物件		
	自社単独物件	1,698,525	67.4
	小計	1,698,525	67.4
不動産賃貸事業	1,092,998	13.6	
不動産仲介事業	3,249		
請負事業	102,388	31.3	
その他	26,612	59.8	
合計	2,923,774	53.8	

(注)1.セグメント間取引については、相殺消去しております。

2.不動産分譲事業における共同事業物件の売上高は、各物件の総売上高に対し当社グループ事業シェアに応じた当社グループの売上高であります。なお、当第2四半期連結累計期間における売上計上はありません。

(7)主要な設備

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	98,644,000
計	98,644,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成31年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年3月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	24,661,000	24,661,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	24,661,000	24,661,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年11月1日～ 平成31年1月31日		24,661,000		100,000		

(5) 【大株主の状況】

平成31年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
株式会社ハウスセゾン	京都府京都市上京区河原町通今出川下る2丁目栄町364	12,803	54.22
株式会社はーとふるセゾン	京都府京都市上京区河原町通今出川下る2丁目栄町364	900	3.81
DAIWA CM SINGAPORE LTD(TRUST A/C) (大和証券株式会社)	7 STRAITS VIEW MARINA ONE EAST TOWER,#16-05 AND #16-06 SINGAPORE 018936 (東京都千代田区丸の内1丁目9番1号)	757	3.21
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目9番1号	432	1.83
藍澤證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目20-3	238	1.01
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	234	0.99
キャリアラボロジスティクス株式会社	千葉県山武郡芝山町大里18-34	212	0.90
倭田 稔	東京都西東京市	155	0.66
三井不動産レジデンシャル株式会社	東京都中央区銀座6丁目17-1	150	0.64
馬渡 祥二	福岡県福岡市	149	0.63
計		16,033	67.90

(注)上記のほか当社所有の自己株式1,047千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成31年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,047,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,612,400	236,124	
単元未満株式	普通株式 1,500		
発行済株式総数	普通株式 24,661,000		
総株主の議決権		236,124	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。
「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。
2. 単元未満株式には当社所有の自己株式60株が含まれております。

【自己株式等】

平成31年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社明豊エンター プライズ	東京都目黒区目黒二丁目 10番11号	1,047,100		1,047,100	4.25
計		1,047,100		1,047,100	4.25

(注)上記の株式数には、「単元未満株式」60株は含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年11月1日から平成31年1月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年8月1日から平成31年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、明治アーク監査法人による四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、アーク有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、明治アーク監査法人は、令和元年7月1日をもって有限責任監査法人に移行したことにより、名称をアーク有限責任監査法人に変更しております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成31年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,640,084	1,119,876
売掛金	47,026	45,804
販売用不動産	3,219,651	4,125,223
仕掛販売用不動産	2,746,548	4,333,951
関係会社短期貸付金	1,925,000	1,550,001
その他	196,181	230,654
貸倒引当金	2,308	3,058
流動資産合計	9,772,184	11,402,453
固定資産		
有形固定資産	14,735	18,340
無形固定資産	2,379	1,832
投資その他の資産		
投資有価証券	57,621	45,279
長期貸付金	430,184	429,958
長期未収入金	422,800	421,700
繰延税金資産	223,599	218,857
その他	234,651	240,043
貸倒引当金	847,800	846,700
投資その他の資産合計	521,056	509,139
固定資産合計	538,172	529,312
資産合計	10,310,356	11,931,766

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成31年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	157,415	144,780
短期借入金	1,079,913	2,892,847
1年内返済予定の長期借入金	2,038,516	2,701,416
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
リース債務	180	1,107
未払法人税等	247,819	5,189
賞与引当金	55,030	20,601
その他	490,335	334,218
流動負債合計	4,089,210	6,120,160
固定負債		
長期借入金	1,680,196	1,538,188
社債	50,000	40,000
リース債務	-	4,235
その他	233,659	263,763
固定負債合計	1,963,855	1,846,187
負債合計	6,053,065	7,966,347
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,495,610	1,495,610
利益剰余金	3,010,515	2,730,911
自己株式	380,474	380,474
株主資本合計	4,225,651	3,946,047
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,005	8,605
その他の包括利益累計額合計	19,005	8,605
非支配株主持分	12,634	10,764
純資産合計	4,257,291	3,965,418
負債純資産合計	10,310,356	11,931,766

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年1月31日)
売上高	6,333,489	2,923,774
売上原価	4,525,694	2,445,939
売上総利益	1,807,795	477,835
販売費及び一般管理費	481,934	481,523
営業利益又は営業損失()	1,325,860	3,687
営業外収益		
受取利息	5,400	27,326
違約金収入	-	672
貸倒引当金戻入額	1,300	-
その他	986	2,016
営業外収益合計	7,686	30,014
営業外費用		
支払利息	49,805	73,645
支払手数料	26,988	30,641
その他	1,158	581
営業外費用合計	77,952	104,868
経常利益又は経常損失()	1,255,593	78,541
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,255,593	78,541
法人税、住民税及び事業税	139,518	5,070
法人税等調整額	3,106	6,950
法人税等合計	136,411	12,020
四半期純利益又は四半期純損失()	1,119,181	90,562
非支配株主に帰属する四半期純利益	786	130
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	1,118,395	90,693

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年1月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	1,119,181	90,562
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,025	10,399
その他の包括利益合計	3,025	10,399
四半期包括利益	1,122,207	100,962
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,121,421	101,092
非支配株主に係る四半期包括利益	786	130

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,255,593	78,541
減価償却費	2,417	2,207
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,118	350
受取利息及び受取配当金	5,419	27,345
支払利息及び社債利息	49,986	73,786
賞与引当金の増減額(は減少)	15,467	34,428
売上債権の増減額(は増加)	64,894	1,222
たな卸資産の増減額(は増加)	715,118	2,493,549
仕入債務の増減額(は減少)	1,747	12,634
前受金の増減額(は減少)	178,093	14,041
預り金の増減額(は減少)	35,323	127,123
その他	27,904	5,601
小計	695,475	2,688,317
利息及び配当金の受取額	150	236
利息の支払額	47,549	73,299
法人税等の支払額	3,064	268,604
法人税等の還付額	3,795	2,326
営業活動によるキャッシュ・フロー	648,808	3,027,659
投資活動によるキャッシュ・フロー		
その他預金等の預入による支出	2,380	4,440
ゴルフ会員権の売却による収入	-	350
有形及び無形固定資産の取得による支出	5,023	492
有形及び無形固定資産の売却による収入	253	-
貸付けによる支出	475,000	-
貸付金の回収による収入	7,876	375,223
出資による支出	100	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	474,374	370,639
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,002,494	1,812,934
リース債務の返済による支出	342	544
長期借入れによる収入	2,192,200	1,512,400
長期借入金の返済による支出	814,958	991,508
社債の償還による支出	10,000	10,000
自己株式の取得による支出	467,063	-
配当金の支払額	-	188,910
非支配株主への配当金の支払額	-	2,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	102,658	2,132,370
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	71,775	524,648
現金及び現金同等物の期首残高	1,528,100	1,575,969
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,599,875	1,051,321

【注記事項】

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年8月1日 至 平成31年1月31日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年8月1日 至 平成30年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年8月1日 至 平成31年1月31日)
給与手当	163,046千円	165,906千円
賞与引当金繰入額	18,802千円	20,601千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年8月1日 至 平成30年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年8月1日 至 平成31年1月31日)
現金及び預金	1,632,970千円	1,119,876千円
現金及び現金同等物に含めない その他預金等	33,094千円	68,555千円
現金及び現金同等物	1,599,875千円	1,051,321千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年8月1日 至 平成30年1月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年6月22日開催の取締役会決議により、当社定款第11条の6の規定に基づき、自己株式8,707株を取得したため、当第2四半期連結累計期間において自己株式が87,074千円増加いたしました。

また、平成29年6月22日開催の取締役会決議に基づき、平成29年8月1日付で自己株式8,707株の消却を実施したため、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ87,074千円減少いたしました。

さらに、平成29年12月15日開催の取締役会決議に基づき、平成29年12月18日付で自己株式1,046,800株を取得したため、当第2四半期連結累計期間において自己株式が379,988千円増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が87,074千円減少、自己株式が379,988千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,495,610千円、自己株式が380,474千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年8月1日 至 平成31年1月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年10月25日 定時株主総会	普通株式	188,910	8.00	平成30年7月31日	平成30年10月26日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には創立50周年記念配当3.00円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年8月1日 至 平成30年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注3)	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	不動産分譲 事業	不動産賃貸 事業	不動産仲介 事業	請負事業	計				
売上高									
外部顧客に対する売上高	5,205,490	962,224		149,124	6,316,839	16,650	6,333,489		6,333,489
セグメント間の内部売上 高又は振替高				12,615	12,615		12,615	12,615	
計	5,205,490	962,224		161,740	6,329,454	16,650	6,346,105	12,615	6,333,489
セグメント利益	1,287,244	101,628		15,417	1,404,289	16,157	1,420,447	94,586	1,325,860

- (注) 1. セグメント利益の調整額 94,586千円は、セグメント間取引消去 3,846千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 98,433千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に保険代理業を含んでおりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年8月1日 至 平成31年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注3)	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	不動産分譲 事業	不動産賃貸 事業	不動産仲介 事業	請負事業	計				
売上高									
外部顧客に対する売上高	1,698,525	1,092,998	3,249	102,388	2,897,162	26,612	2,923,774		2,923,774
セグメント間の内部売上 高又は振替高				9,350	9,350		9,350	9,350	
計	1,698,525	1,092,998	3,249	111,738	2,906,512	26,612	2,933,125	9,350	2,923,774
セグメント利益又はセグ メント損失()	27,979	94,604	3,138	5,520	75,284	21,898	97,183	100,871	3,687

- (注) 1. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 100,871千円は、セグメント間取引消去5,445千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 106,317千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
3. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に保険代理業を含んでおりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年8月1日 至平成31年1月31日)
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失() (円)	45.80	3.84
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	1,118,395	90,693
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	1,118,395	90,693
普通株式の期中平均株式数 (千株)	24,421	23,613
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかつ た潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年9月12日

株式会社明豊エンタープライズ
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木村 ゆりか 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤本 幸宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社明豊エンタープライズの平成30年8月1日から平成31年7月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年11月1日から平成31年1月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年8月1日から平成31年1月31日まで)に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社明豊エンタープライズ及び連結子会社の平成31年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成31年3月15日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。